

このごろの図書館② 「本の福袋」

季節はずれな話題になりますが、近年定着しつつある「本の福袋」を都筑図書館でも年末年始に実施しています。都筑図書館では、手分けして本を3冊選び、紙で包んでテーマを貼り、書名がわからない状態で本の貸出をするのですが、「選ぶ」ことが苦手な私は毎回呻吟してしまいます。世の中には読み手が思いもかけないようなすばらしい本を差し出す優秀な司書や書店員さんがいらっしゃる一方、私はといえば引き出しも少ない、センスもないというないないづくし。おすすめしたい本があっても同じお題で3冊選ぶというこの企画、2冊までは結構いけるのですが、3冊目で座礁することもしばしば。毎年考えているとアイデアも枯渇するという体たらくなのです。この「本の福袋」、ファン倶楽部通信をお読みのみなさまでしたらもうご存知かとは思いますが、福袋の本を借りるだけではなく、つくる（テーマを決めて本を選ぶ）ところから参加することができます。今どきのベストセラーや図書館で持っていない本では成立しない、というような制約はありませんし、参加型イベントとしてはちょっと地味かもしれませんが、お互いの未知の本に出会うために、次回、ぜひ応募してみませんか？（高原理津子）

図書ファンメンバーのおススメ本

「建築家・松村正恒のモダニズム」
鹿島出版刊
国の重要文化財八幡浜市日土小学校に惚れられ！日本の10人の建築家に選ばれているとは感動！子どもを見る目が違う！（長野）

「未来のだるまちゃんへ」
文藝春秋刊
かこさとしさんが5月2日に亡くなりました。加古さんありがとう！心からの子どもたちへのメッセージです。（ヒ）

「かぶきやパン」
長野ヒデ子童心社刊
8月5日～31日神保町ブックハウスで原画展あり。

「A I と B I はいかに人間を変えるのか」波頭亮／著 幻冬舎
A I は「人工知能」、B I は「ベーシックインカム」のこと。A I によって人の仕事が大きく変わる。B I によって人の生き方が大きく変わる。いまよりも豊かに暮らせる日が来るのか？A I と B I によって…。（小野）

編集後記...見聞覚知を怠らない人々の「良いもの、良いことをもっとシェア！」の気持ち。沢山の人の目に触れることを願います。（原田）

司書のすすめる子ども向けの本②

『うきわねこ』蜂飼耳／ぶん 牧野千穂／え
ブロンズ新社（2011年）
昨年、実家が捨て猫を引き取りました。白にぶちが入った雄猫で、引き取ったばかりの頃はとても小さく、大きな青い目がかわいらしい猫でした。まだ引き取って1年も経ちませんが今では福々としたやんちゃで立派な猫になり、実家ではソファが壊れたり花瓶が倒れたり話題に事欠かないようです。

実家が猫好きということもあり、私も生来の猫好きなのですが、かわいらしい絵で思わず手に取ってしまったのが『うきわねこ』でした。ねこのえびおは誕生日プレゼントにおじいちゃんからうきわをもらいます。おじいちゃんからの手紙に書いてあるとおりの満月の夜にうきわをふくらますと不思議なことがおこります。ねこのえびおは白に黒のぶち猫でまだまだ小さいのですが、おじいちゃんには貫禄ある丸々太った大猫。うちの猫はまだ子どものはずなのに、似ているのはどちらかというたとえびおよりおじいちゃんの方が、ちょっと悩みの種です。（床井満里菜）

司書のすすめる大人向けの本②

『ちょっとマニアックな図書館コレクション談義』
内野安彦／編著 大学教育出版（2015年）
お話を頂いたとき「これだ！」とひらめいた本があったので、紹介させていただきます。図書館といえば、まず思い浮かぶのは本ですよね。図書館にある本は司書が1冊1冊選んで買っています。では、司書はどんなことを考えて本を選び、並べているのか？ということが少しわかるのがこの本です。

I章とII章があるのですが、特にII章にご注目。各図書館の司書が自分の選書の考え方や棚作り、本を人に届けるための工夫などを書いていきます。それは司書だけではなく、図書館好きの人が読んでも楽しむことが出来る内容だと思います。例えば、資料を提供するだけでなく実践もできるようにとボードゲームそのものがある図書館、子どもが好きなヒーローものの本のコーナーがある図書館などなど…なんだかワクワクしてきませんか？ちなみにこの本は2017年に第2弾も発売されています。気になる方はそちらもどうぞ。（杉山ひこの）

図書ファンメンバーのおススメ本

『謎床（なぞどこ）』松岡正剛／ドミニク・チェン著 晶文社 2017年
現代日本の代表的な「知の巨人」松岡と、A I 時代の申し子である気鋭の若手学者チェンとの、注目の対談。大リーグで言えばイチローと大谷の直接対決。人文・社会・自然科学のあらゆる領域を軽々と飛び回り、読むにつれ新鮮な知的興奮が押し寄せる。（一）



坪内さん…緑区役所こども家庭支援課で学校、家庭、地域の連携推進などに取り組む傍ら、図書館司書としての経験を活かした各地フォーラム・研修会を行う。「世代を超えた関わりと繋がりを作ることは行政に携わる者の役割」とし、本を通じて人を知りそれが広がれば地域が豊かになる、そして「共読」がそのきっかけを生むと語る。「五重塔は下から造る」が座右の銘。見えない基礎、地道な活動の一つひとつを大切に前進している。（タウンニュース緑区版 2017/8/31 掲載より）

共読が地域をつくる

坪内 一 緑区役所(元・横浜中央図書館)

横浜市では、平成26年4月に政令市初の「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が議員提案により成立し、施行された。すべての世代の市民が、地域の特性に応じた読書活動を進めるために、18の区役所と市立図書館が連携して個別計画を行なうという、画期的な内容であった。しかし、当時この条例の意義は、区役所はおろか教育委員会内部でも理解されず、図書館現場の多くの司書でさえ、余計な仕事が降ってきたかのごとき反応を示したものだ。いま各区でビブリオバトルなど多様な読書活動が展開しているのは感無量である。

TEL: 948-2424 FAX: 948-2432
都筑図書館〒224-0032 市内都筑区茅ヶ崎中央 32-1

都筑図書館のお知らせ

●絵本をよんであげますよ～
（毎月第三土曜日 注：八月はお休みです）つどおう JiJiBaBa(じじば)隊のみなさんが絵本コーナーで読み聞かせをします。おすすめの絵本も紹介します。赤いバンダナをした方に声をかけてください。
時間 午前10時30分～12時
開催日 6/16(土)、7/21(土)、9/15(土)
会場 都筑図書館 事前申込不要
●ちょっぴりこわ～い 夜のおはなし会
真夏のよる… 地区センターの和室で…ちょっぴりこわい「おはなし」があなたを待っています。子どもだけでなく大人の方もご参加ください。
日時 7月21日(土) 午後6時30分～7時30分
会場 北山田地区センター(市営地下鉄グリーンライン「北山田」駅下車徒歩3分)
対象 小学生以上
定員 先着20名
申込 6月21日(木)～北山田地区センター(電話：045-593-8200)で受付。
問い合わせ 北山田地区センター
協力 都筑図書館・つづきっこ読書応援団(TDO=つどおう)

●図書館たんけん隊 おしごとたいけんもあるよ!
いつもは入れない図書館のうらがわをご紹介!本を棚に並べるお仕事も体験できます。※カウンターでのお仕事体験はありません。
日時 (1)7月27日(金)午前9時40分～11時40分(2)7月27日(金)午後2時10分～4時10分※各回の内容は同じです。
会場 都筑図書館
対象 都筑区在住の小学3～4年
定員 各回先着順15名
申込 7月11日(水)午前9時30分～都筑図書館カウンターまたは電話で
●横浜みどりアップ 森の中のプレイヤー「封印されし森のパズルを解き明かせ!」公園にある自然を発見し、探偵事務所(図書館)の本を使って謎を解き明かします。
日時 7月31日(火) 午前9時30分～12時30分
会場 都筑区総合庁舎6階大会議室A・都筑中央公園
対象 市内在住小学4～6年生
定員 先着順20名
申込 7月13日(金)午前9時30分～カウンターまたは電話で
共催 環境創造局みどりアップ 推進課

●くまさんのおはなし会
（毎月第二木曜日 注：八月、一月はお休みです）わらべうたや絵本の読み聞かせを保護者の方とお子さまとお楽しみください。
時間・対象 ①午前10時～10時25分 0,1歳児と保護者
②午前10時45分～11時10分 2,3歳児と保護者
定員 各回先着10組
開催日 6/14(申込5/31～)、7/12(申込6/28～)9/13(申込8/30～)
会場 都筑図書館
申込 各申込日の午前9時30分から図書館窓口または電話で。
●定例おはなし会
（毎月第三水曜日）
時間 午後3時30分～4時
対象 ひとりでおはなしをきける子
※保護者のつきそいをご希望の場合は事前にご相談ください。
開催日 6/20(水)、7/18(水)、8/15(水)、9/19(水)
会場 都筑図書館 事前申込不要。
●(仮)読書フェスタ
詳細が決まり次第お知らせします。
日程 11月15日(木)～18日(日)

つづき図書館 ファン倶楽部 通信 vol.49



2018年・初夏

特集：だから図書館に行こう！

- 発行：つづき図書館ファン倶楽部
- 住所：横浜市中区茅ヶ崎南 2-18-7-503（若杉）
mailto:wakasugi@c06.itscom.net/
ホームページ：tsuzuki.libraryfun.net/
- 年会費：一口1,000円
- 定例会：月一回

つづき図書館ファン倶楽部は
2000年3月都筑区制5周年記念として都筑図書館がシンポジウムを開催。参加した区民サポーターが有志で図書館の価値を広める目的で結成しました。



特集
だから図書館に行こう！

わたしを見つけるため
(江幡千代子)

感動し共感するとは、
自分の中の気づかない部分が引き出されるということ。
今まで見えなかった感情を、本が導いてくれます。

読書は現実逃避
(小山亜紀子)

学ぶためだけではなく、
日常から脱出できるひと時。
心地よく眠れる効果も期待できます。

ありありと追体験する
(高原理津子)

本を通してたくさんの人と出会うことができます。
行ったことがない場所やできごと
を、リアルに感じ取ることができます。



つづき図書館
ファン倶楽部
メンバーの
コノゴロ
no
ココロ

人から何かを得たいから
きょういく きょうよう
「今日行く」「今日用」の場へ
(杉山ひこの)

教育・教養の場とは、かたいことではなく
今日、そこに行き、今日、用があるという
こと。いつ必要ができて、
いつもそこに図書館は待っています。

心に必要な栄養の摂取
(小野勝秋)

図書館は、困ったことを解決する場。
たとえば病氣などを調べることで、正しい情報を得られ、
安心できます。知ることによって不安を解消し、
現実を受け止めることができます。

図書館では
こんなこともできますよ

行ってみると、興味の分野も手に取って読む気になります。都筑の歴史も学べます
(都筑をガイドする会で大活躍！福島県の地元紙もあります)。資料を国立国会図書館
から取り寄せられます(詳しくはカウンターの司書さんへ)。レファレンス(学習や研究
に必要な情報・資料を検索・提供してくれるサービス。カウンターで司書さんに声を掛
ければすぐに利用できます)を活用すれば、より早く、より多くの情報を得ることがで
きます。都筑図書館での実体験として、司書さんは利用者である自分一人では見えなかつ
た、更に必要な情報を先回りして提示してくれた上、対応スピードも早い！これには
感動しました。私たちの『知る権利』は守られています。(らら)

- 読書会による普及活動に勤しんでいて、これまでの「課題型」、「紹介型」から新しく「対話型」というカテゴリー「読書＋対話」を楽しんでいます。6月から地域ケアプラザでも高齢者の引きこもり防止のために開催します。(肇)
- 科学遊びと科学絵本や読み物の紹介を手伝ったり実際にやってみる機会が増えました。子どもたちの質問に毎回ドキドキ。色々な本に目を輝く子どもたちの様子は準備の大変さも吹っ飛びます。(み)
- 自宅で文庫を開いて1年半。訪問者は親子連れや私と同世代。絵本に感動する初々しさは年齢に関係ない。一冊の本から話題が広がる楽しい時間！こんな場所をまち中に広げたい。走るブックカフェを実現したいなあ。(江幡)
- 人類の最大の発明は「文字」と「本」だと思う。叡智を詰め込んだ「本」を読まない人生はもったいない。子どもの時から習慣づけることが、J i j i B a b a 隊のミッションではないかと思う。(福)
- 無性に本を読みたくなる時がある。それはプレゼンをした時や記事を書いている時。つまり脳の中から何かをアウトプットしたときだ。おそらく脳の中の情報が枯渇して水を求めるように、本を求めているのだろう。(小野)
- 横浜市の市民意識調査によると都筑区は暮らしやすさ9割超の満足度。しかし、読書支援の核となる図書館は1区1館で人当たりの資料費も少ない。毎日、多方面の講座をする図書館もある。もっと文化的な街に住みたい。(中村)
- 今春、小学校を異動。が、私の後の学校司書はいない。先日の歓送迎会で会った先生方は「学校図書館が荒れている。司書は不可欠。」と口を揃えた。そんな学校が31校もある。はまっ子の読書推進のため改善を！(紀)

祝 文部科学大臣表彰！！

つづきっこ読書応援団(つどおう)が子どもの読書活動優秀実践団体に選ばれました

T つ 都筑区の子どものための
D ど 読書活動を
O おう 応援していこう



TDO総会で(5・10)

今回の受賞を、とてもうれしく思っています。

つどおうは、その名の通り『都筑区の子どものための、読書を、応援する』が目的です。そのためには、子どもたちに読書の楽しさを伝える役割である大人の存在が大切だと考えています。

しかしながら、「子どもたちに読書の楽しさを」との思いは一緒でも、地域のおはなし会等で活動する人と小中学校図書館などで活動する人では、お互いに情報もなく接点もありませんでした。私たちは、それぞれの活動内容や考え方を共有し協力しあう事にしました。それはお互いの活動の幅を大きく広げました。

つどおうの大きな特徴は、都筑図書館や区役所とも協力しながら、子どもたちに対してだけではなく、子どもを支える大人のための講座や講習会をしていることです。私たちは「小中学校ボランティア大交流会」「リユース図書活動」「地蔵まつり、わすれない3・11などでのわらべうたや青空図書館」「科学遊びと本をつなげるイベント」「つどおう JiJiBaBa 隊の発足」他、色々な活動をしています。

つどおうは、これからも子どもたちに読書の楽しさを伝える大人をどんどん増やし、「都筑区の子どものための読書を応援」していきたいと思います。

つづきっこ読書応援団(TDO＝つどおう)とは…

つづき図書館ファン倶楽部が、都筑区役所の委託事業として2010年10月に都筑図書館の協力で行った連続講座『つづきっこの読書環境を良くする応援団になろう』の最終回での話し合いの場から誕生しました。

メンバーは58名で3つのグループに分かれて活動しています。また企画した講座から新しい団体も次々誕生し合わせる、のべ130名となりどんどん輪を広げています。

① 地域で活動している人を中心の『企画部会』

地域活動やイベント参加ほか講座から生まれた「つどおう JiJiBaBa 隊」は図書館での読んでもらえますよやグループホーム、地区センターでの読み聞かせなど幅広く活動中。

② 学校で活動している人を中心の『学校部会』

ボランティア交流会やリユース以外にも学校図書館見学や修理相談など。

③ スキルアップや情報提供を考える人を中心とした『勉強部会』

科学や語りなど色々なテーマで読書を考えるほか講座から生まれた「絵本勉強会マドレーヌ」やわらべうたの「わらしっこ」も活動中。

(TDO 代表 三田律子)



授賞式にて(5・3)